

あ ゆ み



昭和46年 消防演習

美 唄 市 消 防 の 沿 革

明治

- 36年8月 私設沼貝消防組設立 初代組頭 鈴木武四郎
乙号型腕用ポンプ 1台
37. 10 私設沼貝消防組が公立沼貝消防組に改組 組員36名
40. 5 美唄市街地大火(22棟20戸焼失)

大正

5. 5 私立美唄炭山消防組結成 組員30名 腕用ポンプ1台
6. 7 私立美唄炭山消防組を公立我路消防組に改称
沼貝消防組に部制を設ける。
第1部 沼貝市街地
第2部 峰延市街地 部員28名
9. 12 沼貝消防組第3部発足
第3部 茶志内市街地 部員13名 7号腕用ポンプ1台
11. 3 沼貝消防組第4部発足
第4部 沼貝市街地 部員26名 腕用ポンプ1台
15. 6 沼貝町が美唄町と改称される。(6,141世帯・32,240人)
沼貝消防組を美唄消防組に改称

昭和

2. 9 美唄消防組第2部が独立し峰延消防組設立 組員25名
美唄消防組第4部を第2部に改称
美唄消防組第4部発足
第4部 美唄市街地 部員25名 腕用ポンプ1台
4. 5 我路市街地大火 焼失204戸
6. 12 我路市街地大火 焼失76戸
9. 6 美唄消防組第5部発足
第5部 美唄市街地 部員25名 腕用ポンプ1台
9. 9 美唄消防組本部庁舎新築(現大通西1条南1丁目)に木造2階建
美唄消防組第5代組頭 故海老名広吉氏の遺志により庁舎横に火の見鉄骨
望楼81尺(24.5m)1基建造
11. 5 消防ポンプ自動車1台購入 美唄消防組に配備
12. 5 美唄市街地大火 焼失372戸、損害額180万円、罹災者1,900名

13. 4 消防団常備2名配備
13. 10 美唄市街地の大火で美唄消防組本部庁舎焼失したため、同敷地に同本部庁舎
新築木造モルタル2階建 延365㎡
14. 4 警防団令(勅令)施行 美唄消防組を美唄警防団に再編成
1本部 15分団 927名
炭鉱地区に三井美唄警防団・三菱美唄警防団が同時に発足
18. 4 美唄警防団15分団を統廃合し11分団に再編成
19. 4 消防団常備7名増員(計9名) 第2分団に4名配備
22. 4 消防団令(勅令)施行 各警防団を消防団に改称
22. 8 美唄消防団6分団4部制に再編成 団員299名
我路消防団発足 団員75名
22. 12 消防組織法(法律第226号)公布 消防組織は自治体消防として独立する。
23. 4 望楼監視勤務開始
23. 7 消防法(法律第186号)公布
23. 10 水槽付消防ポンプ自動車購入 美唄消防団に配備
24. 2 美唄・南美唄・峰延・光珠内・茶志内・沼南・三井美唄・三菱美唄・三井新
美唄・日東三菱茶志内・我路の11団編成となる。 団員1,024名
- | | | |
|------|-------------|------|
| 消防装備 | 消防ポンプ自動車 | 11台 |
| | 水槽付消防ポンプ自動車 | 1台 |
| | 手引きガソリンポンプ | 12台 |
| | 腕用ポンプ | 16台 |
| | 防火水槽 | 63台 |
| | 消火栓 | 395基 |
25. 4 市制施行により美唄市となる。(16,356世帯、87,095人)
消防団常備が美唄市消防本部・消防署として発足 消防職員定員30名
初代消防長 前田富蔵、初代署長 深尾三郎
25. 9 北海道消防ポンプ操法競技大会に初出場
26. 2 茶志内消防団 中村分団発足 団員20名
26. 3 三井新美唄消防団解団 同地域を三井美唄消防団管轄区域に編入
美唄消防 10団 1,055名
26. 4 消防職員 定員38名
茶志内出張所開設 職員2名配置
26. 7 北海道消防ポンプ操法競技大会出場 B級 第3位入賞

26. 9 美唄駅前大火 焼失21戸、損害額3,950万円
27. 4 消防職員 定員40名
27. 6 峰延機関員出張所開設 職員1名配置
27. 7 美唄消防団創立50周年記念式典挙行
27. 9 南美唄機関員出張所開設 職員1名配置
28. 4 消防職員 定員45名
美唄市街地大火 焼失41戸 損害額2,620万円
29. 4 第一機関員出張所開設 職員1名配置
29. 12 南美唄市街大火 焼失28戸 損害額1億900万円
31. 4 美唄消防4団に再編成
美唄消防団 11分団 273名
三菱美唄消防団 3分団 325名
三井美唄消防団 120名
三菱茶志内消防団 50名
31. 6 旭機関員出張所開設 職員1名配置
31. 7 美唄市消防火災出動要綱制定
31. 11 美唄消防団我路分団発足 団員60名
32. 7 茶志内出張所を茶志内機関員出張所に改称 職員1名配置
32. 10 沼南分団詰所新築
32. 12 美唄消防団上美唄分団発足 団員22名
33. 3 日東市街大火 焼失29戸 損害額800万円
33. 4 消防職員 定員48名
35. 8 日本損害保険協会から普通消防ポンプ自動車の寄贈を受け署に配備
36. 8 美唄消防団東明分団発足 団員30名
36. 9 東明機関員出張所開設 職員1名配置
消防無線固定局開設 基地局～1、移動局～2
38. 2 美唄市火災予防条例(条例1号)公布
39. 4 消防職員 定員55名
三井美唄消防団解団 美唄消防団に編入し三井分団発足 団員38名
三井出張所開設 職員4名配置
39. 5 我路分遣所を出張所に改称
40. 10 三菱美唄消防団を東美唄消防団に改称 団員180名
40. 11 東美唄出張所開設 職員2名配置

- 41 . 8 集中豪雨(降水量249mm) 死傷者4名
家屋、河川、道路、橋梁の損壊 被害総額23億8,240万円
- 42 . 3 三菱茶志内消防団解団 同地域を美唄消防団茶志内分団管轄区域に編入
昭和41年8月豪雨水防活動に対し、美唄消防団が建設大臣表彰受賞
- 42 . 9 美唄市消防本部救急業務実施規定制定 救急業務開始
- 43 . 3 南美唄出張所・分団詰所新築
美唄消防団条例の一部改正 団員定員566名とする。
- 43 . 4 三井分団を解団 同地域を南美唄分団管轄区域に編入
三井出張所廃止
- 43 . 11 救急車1台購入 署に配備
- 45 . 11 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車の寄贈を受け中央分団に配備
- 46 . 1 寄宿舍火災(焼失59㎡) 焼死者10名、負傷者1名
- 46 . 2 美唄市消防本部・署庁舎新築(現西1条北6丁目1番30号)
鉄筋コンクリート2階建 延1,058㎡
消防無線更新 基地局～1、移動局～5
望楼勤務廃止
- 46 . 7 消防職員 定員58名
- 47 . 3 川西栄三団長が消防庁長官功労章受賞
- 47 . 7 東美唄消防団解団 同地域を美唄消防団我路分団管轄区域に編入
- 47 . 8 東美唄出張所廃止
- 47 . 10 化学車1台購入 署に配備
相次ぐ炭鉱閉山のため一市一団となり美唄市消防団と改称
1団 14分団 386名
- 48 . 2 美唄市消防団が優良消防団として、日本消防協会より表彰旗授与される。
- 48 . 4 峰延機関員出張所を出張所に改称 職員3名配置
- 48 . 8 北海道消防操法大会出場(中央分団)
- 48 . 10 消防本部・署機構改革、消防本部2課4係・1署制とする。
第一機関員出張所・旭機関員出張所閉鎖
- 49 . 1 出初式においてキヤリ行進を始める。
- 49 . 7 日本船舶振興会から小型ポンプ付積載車の寄贈を受け進徳分団に配備
- 49 . 8 光珠内分団詰所新築
- 50 . 4 大型移動水槽車(10t)1台購入 署に配備
- 50 . 8 台風6号集中豪雨(降水量200mm)

50. 8 石狩川越水により市内中河川氾濫 被害総額33億3,000万円
北海道救助技術指導会に初参加
空知信用金庫より救急車の寄贈を受け署に配備(2台体制)
51. 2 昭和50年8月 台風6号水防活動に対し、美唄市消防団が建設大臣表彰受賞
51. 7 我路分団解団、同地域を東明分団管轄区域に編入
51. 10 美唄市消防団条例及び規則一部改正 13分団 定員312名
51. 12 消防本部、署機構改革、消防本部3課6係・1署制とする。
52. 10 茶志内出張所・分団詰所新築
53. 7 北海道消防操法大会出場(峰延分団)
53. 10 15m級屈折はしご付消防ポンプ自動車1台購入 署に配備
東明機関員出張所を出張所に改称 職員3名配置
54. 6 南美唄機関員出張所を出張所に改称 職員2名配置
54. 10 東明出張所・分団詰所新築
55. 11 署に通信一斉指令装置導入
55. 12 旭分団詰所新築
56. 8 集中豪雨(降水量426.8mm)
市内中河川氾濫 被害総額41億5,700万円
56. 9 日本損害保険協会から救助工作車の寄贈を受け、署に配備
56. 10 消防無線更新 基地局～1、移動局～9、携帯～2
署に消防気象観測装置導入
56. 11 8月集中豪雨水防活動により美唄市消防団が建設大臣表彰受賞
57. 7 孫在永氏から災害救助用アルミボート3艘及び救命胴衣50着の寄贈を受ける。
57. 9 昭和56年8月集中豪雨水防活動により美唄市消防団が内閣総理大臣表彰受賞
58. 4 第一分団詰所新築(福祉会館に併設)
58. 9 美唄市消防団条例及び規則一部改正 13分団 定員285名
60. 4 各出張所を分遣所に改称
60. 11 上美唄分団詰所新築(福祉会館に併設)
61. 2 美唄市消防安全管理規程制定
61. 9 進徳分団詰所新築
62. 11 北海道共済農業協同組合連合会から救急自動車1台の寄贈を受け、署に配備
62. 12 中村分団詰所新築(中村地区コミュニティ消防センター)
63. 4 消防本部・署機構改革、消防本部2課4係・1署6係制とする。
我路分遣所廃止、連絡所とする。

- 63. 4 東明分団我路部廃止
- 63. 9 北海道救急医療情報システム運用開始
- 63. 12 大富分団詰所新築(大富地区コミュニティ消防センター)

平成

- 元. 4 消防本部・署機構改革、消防本部2課5係・1署8係制とする。
- 2. 12 災害弱者緊急通報システム運用開始
峰延分遣所・分団詰所新築(峰延地区コミュニティ消防センター)
- 3. 4 北海道広域消防相互応援協定を締結
- 3. 6 西美唄保育所幼年消防クラブを結成
- 4. 6 茶志内双葉・進徳保育園幼年消防クラブを結成
- 4. 7 峰延・光珠内・茶志内・中村みのり保育所幼年消防クラブを結成
- 4. 11 南美唄分遣所・分団詰所新築(南美唄地区コミュニティ消防センター)
大坪喜代太氏からマイクロバスの寄贈を受け、「美消号」と命名する。
美唄市名誉消防団員規程制定
- 5. 3 水槽付消防ポンプ自動車(6,500L)1台購入 署に配備
- 6. 8 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車(2,000L)の寄贈を受け、
峰延分団に配備
- 6. 11 美唄市消防団キヤリ保存会結成
- 7. 3 我路連絡所廃止
- 7. 7 北海道消防操法訓練大会出場(上美唄分団 小型ポンプ操法の部)
- 8. 3 国道12号線拡幅工事に伴い消防庁舎の増改築工事を完了する。
鉄筋コンクリート・一部鉄骨造り2階建 1,890.02㎡
消防緊急通信指令施設Ⅰ型・消防団緊急伝達システム導入
高規格救急自動車1台購入 4月から運用開始する。
- 8. 9 消防庁舎増改築に伴う外溝整備工事が完了する。
- 8. 11 消防団で女性消防団員8名採用
大坪喜代太氏から美唄市消防団キヤリ保存会に太鼓5張の寄贈を受け、
「美消太鼓」と命名する。
- 9. 3 大坪喜代太団長が消防庁長官功労章受賞
- 9. 4 機構改革により1署10係制及び東明・南美唄・峰延分遣所に所長を置く。
- 10. 2 30m級はしご付消防自動車1台購入 署に配備
- 10. 11 美唄市消防団が優良消防団として、北海道より表彰旗授与される。
- 10. 12 沼南分団詰所新築(沼南地区コミュニティ消防センター)

- 11. 3 茶志内分遣所廃止
- 12. 4 有珠山噴火に伴い北海道広域消防相互応援協定によりポンプ隊1隊5名派遣する。
- 13. 3 救助工作車（Ⅱ型）1台購入 署に配置
- 14. 3 美唄市消防本部、美唄市消防団、消防庁長官より竿頭授与される。
光珠内分団拓北部廃止
- 15. 4 機構改革 消防署を2課制とし課長補佐を置く。
- 15. 7 大坪喜代太氏からマイクロバスの寄贈を受ける。
- 15. 8 財団法人日本宝くじ協会から訓練指導車「けすゾウくん」の寄贈を受ける。
- 15. 10 十勝沖地震による出光興産(株)北海道製油所タンク火災に伴い北海道広域消防相互応援協定により化学車隊1隊15名派遣する。
- 16. 6 美唄消防公設100年記念式典挙行
- 16. 9 台風18号強風被害(市内最高風速37.5m) 被害総額10億6,091万円
- 17. 2 高規格救急自動車1台購入 署に配置。高規格救急自動車2台体制
- 17. 6 美唄市消防団キヤリ保存会10周年記念式典挙行
- 18. 11 化学消防ポンプ自動車（Ⅱ型）1台購入 署に配置
- 19. 3 美唄市消防本部、美唄市消防団、消防庁長官より表彰旗授与される。
矢部正義団長が消防庁長官功労章受賞
- 19. 4 美唄市消防団規則一部改正 9分団 定員285名
中央分団・旭分団・東明分団・南美唄分団・光珠内分団・峰延分団
西美唄分団・中村分団・茶志内分団
- 19. 9 東明分遣所廃止
- 19. 10 大通西1条南2丁目建物火災で職員2名殉職
- 19. 11 美唄市消防葬挙行
- 20. 3 日本消防協会より防災指導車の交付を受け、署に配置
- 20. 4 消防職員 定員48名
- 21. 4 機構改革 消防署に救急課を置く
- 22. 10 高規格救急自動車1台購入 署に配置
- 23. 3 東日本大震災に伴い緊急消防援助隊として、隊員3名を派遣。
- 23. 4 消防本部・署機構改革、消防本部2課4グループ・署2課5グループ制とする。
- 23. 11 消防ポンプ自動車CD-I型2台購入 旭分団及び東明分団に配置
- 23. 12 査察車1台購入 署に配置
- 24. 7 矢部正義団長が消防功労者総務大臣表彰受賞

- 25. 2 高機能型消防緊急通信指令施設導入。
- 25. 7 財団法人日本宝くじ協会から煙体験ハウス及びスモークマシンの寄贈を受ける。
- 25. 11 消防団120年・自治体消防65周年記念大会において、消防伝統演技で美唄マトイを披露する。
- 25. 12 水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅰ－A型）を購入 中央分団に配置。
- 26. 1 総務省消防庁から消防団拠点資機材と救助資機材搭載型車両を貸与される。
車両は西美唄分団に配置。
- 26. 2 美唄市消防団が、消防庁長官より消防団等地域活動表彰を受賞する。
- 26. 7 北海道消防操法訓練大会出場（茶志内分団 ポンプ車操法の部）。
- 27. 8 美唄市消防団キヤリ保存会20周年記念式典挙行。
- 28. 4 消防本部・署機構改革、消防本部2課4係・署2課5係制とする。
- 28. 12 旭分団詰所新築
- 29. 2 高規格救急自動車1台購入 署に配置
- 30. 3 水槽付消防ポンプ自動車1台購入 署に配置
- 30. 9 台風21号強風被害 被害総額89,763千円
- 30. 9 北海道胆振東部地震に伴い広域消防相互応援協定により消火隊1隊5名派遣。
- 30. 12 美唄市消防団が、北海道開発局より水防功労者表彰を受賞する。
- 31. 3 災害対応特殊小型動力ポンプ付水槽車（積載水：10t）1台購入 署に配置
- 31. 4 消防署機構改革、4課4係制とする。
美唄市消防団機能別団員制度を制定する。
夕張市で模擬坑道火災が発生し、広域相互応援協定により消防隊2隊8名派遣。

令和

- 2. 10 夕張市消防本部で新型コロナウイルス感染症クラスター発生により広域応援隊として消防隊2隊8名派遣。
- 3. 3 災害対応特殊屈折はしご付消防ポンプ自動車(25m級)1台購入 署に配置
- 3. 3 高規格救急自動車1台購入 署に配置 救急自動車3台体制となる。

歴 代 消 防 長

代 数	階 級	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	消防司令長	前 田 富 蔵	昭和 25 年 4 月 1 日	昭和 29 年 9 月 25 日	
第2代	消防司令長	佐 藤 始 馬	昭和 29 年 9 月 25 日	昭和 43 年 5 月 1 日	
第3代	消防司令長	大 窪 隆 義	昭和 43 年 5 月 1 日	昭和 44 年 4 月 1 日	市助役兼務
第4代	消防司令長	平 泉 利 正	昭和 44 年 4 月 1 日	昭和 48 年 3 月 31 日	
第5代	消防司令長	石 田 正 雄	昭和 48 年 4 月 5 日	昭和 51 年 12 月 20 日	
第6代	消 防 監	仁 村 清 次	昭和 51 年 12 月 21 日	昭和 58 年 4 月 1 日	
第7代	消 防 監	會 木 猛	昭和 58 年 4 月 1 日	昭和 61 年 3 月 31 日	
第8代	消 防 監	井 坂 進	昭和 61 年 4 月 1 日	昭和 63 年 3 月 31 日	
第9代	消 防 監	藤 崎 秀 明	昭和 63 年 4 月 1 日	平成 7 年 3 月 31 日	
第10代	消 防 監	伊 藤 順 一	平成 7 年 4 月 1 日	平成 8 年 12 月 8 日	
第11代	消 防 監	木 内 汎 司	平成 9 年 4 月 1 日	平成 13 年 3 月 31 日	
第12代	消 防 監	中 明 廣 幸	平成 13 年 4 月 1 日	平成 15 年 3 月 31 日	
第13代	消防司令長	佐 藤 賢 治	平成 15 年 4 月 1 日	平成 21 年 3 月 31 日	
第14代	消防司令長	霜 田 公 法	平成 21 年 4 月 1 日	平成 24 年 3 月 31 日	
第15代	消防司令長	後 藤 樹 人	平成 24 年 4 月 1 日	平成 28 年 12 月 31 日	
第16代	消防司令長	相 馬 一 司	平成 29 年 1 月 1 月		

※平成18年4月階級規則改正により、消防長の階級を消防監から消防司令長とする。

歴 代 次 長

代 数	階 級	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	消防司令	仁 村 清 次	昭和 46 年 5 月 1 日	昭和 51 年 12 月 20 日	署長兼務
第2代	消防司令長	會 木 猛	昭和 53 年 4 月 1 日	昭和 58 年 3 月 31 日	署長兼務
第3代	消防司令長	井 坂 進	昭和 58 年 4 月 1 日	昭和 61 年 3 月 31 日	署長兼務
第4代	消防司令長	藤 崎 秀 明	昭和 61 年 4 月 1 日	昭和 63 年 3 月 31 日	署長兼務
第5代	消防司令長	落 合 幸 作	昭和 63 年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月 31 日	署長兼務
第6代	消防司令長	伊 藤 順 一	平成 4 年 4 月 1 日	平成 7 年 3 月 31 日	署長兼務
第7代	消防司令長	木 内 汎 司	平成 7 年 4 月 1 日	平成 9 年 3 月 31 日	署長兼務
第8代	消防司令長	中 明 廣 幸	平成 9 年 4 月 1 日	平成 13 年 3 月 31 日	署長兼務
第9代	消防司令長	佐 藤 賢 治	平成 13 年 4 月 1 日	平成 15 年 3 月 31 日	署長兼務
第10代	消防司令	清 水 史 夫	平成 15 年 4 月 1 日	平成 21 年 3 月 31 日	署長兼務
第11代	消防司令	相 馬 一 司	平成 24 年 4 月 1 日	平成 29 年 3 月 31 日	消防長事務取扱
第12代	消防司令	新 田 博	平成 29 年 4 月 1 日	平成 31 年 3 月 31 日	総務課長事務取扱
第13代	消防司令	菅 原 利 彦	平成 31 年 4 月 1 日		総務課長事務取扱

※平成18年4月階級規則改正により、次長の階級を消防司令長から消防司令とする。

歴 代 消 防 署 長

代 数	階 級	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備 考
初 代	消防司令	深 尾 三 郎	昭和 25 年 4 月 1 日	昭和 40 年 5 月 10 日	
第2代	消防司令	田 村 勝 視	昭和 40 年 6 月 1 日	昭和 44 年 4 月 1 日	
第3代	消防司令長	平 泉 利 正	昭和 44 年 4 月 1 日	昭和 48 年 3 月 31 日	署長事務取扱
第4代	消防司令長	石 田 正 雄	昭和 48 年 4 月 5 日	昭和 48 年 9 月 30 日	署長事務取扱
第5代	消防司令	仁 村 清 次	昭和 48 年 10 月 1 日	昭和 53 年 3 月 31 日	次長兼務
第6代	消防司令長	會 木 猛	昭和 53 年 4 月 1 日	昭和 58 年 4 月 1 日	次長兼務
第7代	消防司令長	井 坂 進	昭和 58 年 4 月 1 日	昭和 61 年 3 月 31 日	次長兼務
第8代	消防司令長	藤 崎 秀 明	昭和 61 年 4 月 1 日	昭和 63 年 3 月 31 日	次長兼務
第9代	消防司令長	落 合 幸 作	昭和 63 年 4 月 1 日	平成 4 年 3 月 31 日	次長兼務
第10代	消防司令長	伊 藤 順 一	平成 4 年 4 月 1 日	平成 7 年 3 月 31 日	次長兼務
第11代	消防司令長	木 内 汎 司	平成 7 年 4 月 1 日	平成 9 年 3 月 31 日	次長兼務
第12代	消防司令長	中 明 廣 幸	平成 9 年 4 月 1 日	平成 13 年 3 月 31 日	次長兼務
第13代	消防司令長	佐 藤 賢 治	平成 13 年 4 月 1 日	平成 15 年 3 月 31 日	次長兼務
第14代	消防司令	清 水 史 夫	平成 15 年 4 月 1 日	平成 21 年 3 月 31 日	次長兼務
第15代	消防司令	後 藤 樹 人	平成 21 年 4 月 1 日	平成 24 年 3 月 31 日	
第16代	消防司令	米 田 勝 已	平成 24 年 4 月 1 日	平成 29 年 9 月 30 日	
第17代	消防司令	小 林 稔	平成 29 年 10 月 1 日		

※平成18年4月階級規則改正により、署長の階級を消防司令長から消防司令とする。

歴 代 組 頭 ・ 団 長

名 称	代 数	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日
沼貝消防組	初 代	鈴 木 武四郎	明治 37 年 10 月 21 日	明治 38 年
沼貝消防組	第2代	吉 積 儀 蔵	明治 38 年	明治 42 年 6 月
沼貝消防組	第3代	谷 本 秋 次	明治 42 年 6 月	明治 43 年 5 月
沼貝消防組	第4代	山 田 与三松	明治 43 年 5 月	明治 45 年
沼貝消防組	第5代	海老名 広 吉	明治 45 年	大正 8 年 8 月
沼貝消防組	第6代	野 村 甚太郎	大正 8 年 8 月	大正 15 年 6 月
美唄消防組	初 代	野 村 甚太郎	大正 15 年 6 月	大正 15 年 10 月
美唄消防組	第2代	山 本 寅 吉	大正 15 年 10 月	昭和 12 年 12 月
美唄消防組	第3代	池 田 千 治	昭和 12 年 12 月	昭和 14 年 4 月 1 日
美唄警防団	初 代	池 田 千 治	昭和 14 年 4 月 1 日	昭和 18 年 3 月 14 日
美唄警防団	第2代	奥 山 政次郎	昭和 18 年 4 月	昭和 22 年 8 月 1 日
美唄消防団	初 代	前 田 富 蔵	昭和 22 年 8 月 1 日	昭和 25 年 3 月 31 日
美唄消防団	第2代	小 松 智 一	昭和 25 年 7 月 1 日	昭和 31 年 3 月 31 日
美唄消防団	第3代	川 西 栄 三	昭和 31 年 6 月 1 日	昭和 47 年 10 月 14 日
美唄市消防団	初 代	川 西 栄 三	昭和 47 年 10 月 14 日	昭和 54 年 10 月 20 日
美唄市消防団	第2代	伊 藤 誠 市	昭和 54 年 10 月 20 日	昭和 62 年 3 月 31 日
美唄市消防団	第3代	大 坪 喜代太	昭和 62 年 4 月 1 日	平成 13 年 3 月 31 日
美唄市消防団	第4代	矢 部 正 義	平成 13 年 4 月 1 日	平成 25 年 3 月 31 日
美唄市消防団	第5代	岡 政 義	平成 25 年 4 月 1 日	令和 2 年 3 月 31 日
美唄市消防団	第6代	白 木 昭 志	令和 2 年 4 月 1 日	

美 唄 市 名 誉 消 防 団 員

号 数	氏 名	名誉称号贈呈年月日	備 考
1	伊 藤 誠 市	平成 5 年 1 月 7 日	平成 5 年 7 月 13 日 逝去
2	鈴 木 三 郎	平成 5 年 1 月 7 日	
3	大 坪 喜代太	平成 13 年 7 月 8 日	平成 22 年 1 月 27 日 逝去
4	田 村 光 治	平成 15 年 7 月 13 日	平成 24 年 6 月 27 日 逝去
5	土 本 了	平成 20 年 7 月 13 日	
6	齋 藤 邦 男	平成 22 年 7 月 11 日	
7	黒 宮 富美雄	平成 23 年 7 月 10 日	
8	矢 部 正 義	平成 25 年 7 月 7 日	
9	三 浦 義 明	平成 29 年 7 月 9 日	
10	岡 政 義	令和 2 年 7 月 12 日	

叙 勲 者 名 簿

受 賞 年 月 日	氏 名	勲 章 の 種 類	摘 要
昭和 43 年 4 月 29 日	藤 田 岩	勲七等瑞宝章	元中央分団長
昭和 45 年 7 月 28 日	佐 藤 始 馬	従五位勲四等瑞宝章	元消防長
昭和 50 年 4 月 29 日 昭和 60 年 9 月 18 日	川 西 栄 三	勲五等双光旭日章 従五位勲四等瑞宝章	元消防団長
昭和 52 年 4 月 29 日	福 井 勇	勲六等瑞宝章	元消防司令補
昭和 52 年 11 月 3 日 昭和 57 年 4 月 10 日	深 尾 三 郎	勲五等瑞宝章 従五位	元消防署長
昭和 54 年 4 月 29 日	古 泉 吉 郎	勲七等瑞宝章	元茶志内副分団長
昭和 55 年 11 月 3 日	山 田 盛 明	勲六等単光旭日章	元消防副団長
昭和 57 年 4 月 29 日	山 崎 政 典	勲七等青色桐葉章	元茶志内分団長
昭和 58 年 4 月 29 日	好 川 政 勝	勲七等青色桐葉章	元茶志内分団長
昭和 63 年 11 月 3 日	伊 藤 誠 市	勲五等瑞宝章	元消防団長
平成 4 年 4 月 29 日 平成 13 年 4 月 10 日	久保田 俊 男	勲六等単光旭日章 従七位	元消防司令
平成 8 年 11 月 3 日 平成 24 年 1 月 6 日	武 田 忠	勲六等瑞宝章 正七位	元消防司令
平成 10 年 5 月 20 日	工 藤 恭 雄	勲六等単光旭日章 正七位	元消防司令
平成 11 年 2 月 21 日	道 山 守	勲六等単光旭日章 正七位	元消防司令
平成 13 年 4 月 29 日	中 野 興 吉	勲六等瑞宝章	元東明分団長
平成 15 年 4 月 29 日	大 坪 喜代太	勲五等双光旭日章	元消防団長
平成 15 年 11 月 3 日 平成 30 年 7 月 4 日	安 藤 富 夫	瑞宝単光章 正七位	元消防司令

叙 勲 者 名 簿

受 賞 年 月 日	氏 名	勲 章 の 種 類	摘 要
平成 16 年 4 月 29 日 令和 2 年 1 月 17 月	落 合 幸 作	瑞宝単光章 従七位	元消防司令長
平成 16 年 11 月 3 日	田 村 光 治	瑞宝単光章	元消防副団長
平成 16 年 11 月 3 日 平成 19 年 1 月 30 日	林 幸 夫	瑞宝単光章 正七位	元消防司令
平成 17 年 4 月 29 日	佐 藤 幸 一	瑞宝単光章	元消防司令補
平成 17 年 11 月 3 日	武 藤 猛	瑞宝単光章	元消防司令
平成 18 年 4 月 29 日 令和 3 年 11 月 27 日	河 野 悦 雄	瑞宝単光章 正七位	元消防司令
平成 18 年 11 月 3 日	河 奥 利 章	瑞宝単光章	元消防司令補
平成 19 年 4 月 29 日 平成 21 年 12 月 15 日	會 木 猛	瑞宝双光章 正七位	元消防監
平成 19 年 4 月 29 日 平成 27 年 6 月 25 日	川 原 武 男	瑞宝単光章 正七位	元消防司令
平成 19 年 4 月 29 日	高 倉 芳 昭	瑞宝単光章	元消防司令補
平成 19 年 10 月 27 日	北 清 幸 司	旭日単光章	元消防司令
平成 19 年 10 月 27 日	山 岸 信 貴	旭日単光章	元消防士長
平成 19 年 11 月 3 日 平成 30 年 11 月 22	井 坂 進	瑞宝双光章 正七位	元消防監
平成 20 年 4 月 29 日 平成 25 年 7 月 29 日	藤 崎 秀 明	瑞宝双光章 従六位	元消防監
平成 20 年 11 月 3 日	木 内 汎 司	瑞宝双光章	元消防監
平成 15 年 11 月 3 日 平成 30 年 7 月 4 日	安 藤 富 夫	瑞宝単光章 正七位	元消防司令
平成 21 年 4 月 29 日	太 齋 隆 三	瑞宝単光章	元第一分団長

叙 勲 者 名 簿

受 賞 年 月 日	氏 名	勲 章 の 種 類	摘 要
平成 21 年 11 月 3 日 令和 3 年 3 月 14 日	西 館 喜 多	瑞宝単光章 正七位	元消防司令
平成 22 年 4 月 29 日 平成 31 年 2 月 10 日	中 明 廣 幸	瑞宝双光章 正七位	元消防監
平成 22 年 11 月 3 日	土 本 了	瑞宝単光章	元消防副団長
平成 23 年 11 月 3 日	三 浦 重 雄	瑞宝単光章	元南美唄分団長
平成 24 年 11 月 3 日	佐 藤 賢 治	瑞宝双光章	元消防監
平成 25 年 4 月 29 日	清 水 史 夫	瑞宝単光章	元消防司令長
平成 26 年 4 月 29 日	矢 部 正 義	瑞宝双光章	元団長
平成 26 年 4 月 29 日	齋 藤 邦 夫	瑞宝単光章	元副団長
平成 26 年 4 月 29 日	吉 田 昭 雄	瑞宝単光章	元消防司令
平成 26 年 11 月 3 日	佐 々 木 寛	瑞宝単光章	元消防司令
平成 27 年 4 月 29 日	高 橋 義 朗	瑞宝単光章	元消防司令
平成 27 年 11 月 3 日	霜 田 公 法	瑞宝双光章	元消防司令長
平成 28 年 11 月 3 日	大 津 浩 一	瑞宝単光章	元消防司令補
平成 29 年 4 月 29 日	黒 宮 富美雄	瑞宝単光章	元副団長
平成 29 年 4 月 29 日	西 淳	瑞宝単光章	元消防司令補
平成 29 年 11 月 3 日	大 谷 健 治	瑞宝単光章	元消防司令
平成 30 年 4 月 29 日	中 田 秀 之	瑞宝単光章	元消防司令補
令和 元 年 11 月 3 日	三 浦 義 明	瑞宝単光章	元副団長
令和 2 年 4 月 29 日	岩 元 一 夫	瑞宝単光章	元消防司令
令和 2 年 11 月 3 日	千 葉 悟	瑞宝単光章	元南美唄分団長